王昭君

李白

昭君玉鞍を払い　馬に上って紅頬啼く

今日漢宮の人　明日胡地の妾

【作者】李白(七〇一年～七六二年)・中国の盛唐の時代の詩人である。字は太白(たいはく)。号は青蓮居士。唐代のみならず中国詩歌史上において、同時代の杜甫とともに最高の存在とされる。奔放で変幻自在な詩風から、後世『詩仙』と称される。

【語釈】＊王昭君＝人名・中国歴史上の四大美人の一人。　＊玉＝ぎょく・翡翠(ヒスイ)又はそれに順ずる石。　＊鞍＝くら・馬の背に乗せ、人が乗り易くする馬具。　＊玉鞍＝玉をちりばめた鞍。　＊紅頬＝紅のほほ・化粧した顔　＊啼＝なく。　＊漢宮人＝漢の国の宮廷の人　＊胡＝匈奴(きょうど)など中国の西北に住む異民族。　＊胡地＝胡の人が住む土地・今の新疆・蒙古等。　＊妾＝めかけ・2号さん・愛人。

【通釈】王昭君　玉を散りばめた鞍に補佐され、馬上にてほほに涙をながす。今日は漢の宮殿の人なれど、明朝は胡の国の妾。

【参考】◎その後の王昭君…胡の地へ行った王昭君は匈奴の単于の閼氏(あつし)、即ち皇后となったのでした。漢の後宮で埋もれてしまうよりよほどよっかったと思います。匈奴では漢に対する外交の重要な相談役となり、大切に扱われました。呼韓邪単于の死後次の単于に愛され二人の女の子を産みました。又漢から匈奴への使節を送る時は必ず王昭君の親戚の者を加え、弟が使節団長に成った事もあったそうです。長安の後宮にいては二度と親族に会えることはなかったのに、匈奴に嫁ぐことで、合えるようになったとも言えます。

◎一般に中国四大美人と呼ばれるのは以下の女性たちである。＊西施(せいし)(春秋時代)＊王昭君(漢)＊貂蟬(ちょうせん)(後漢)＊楊貴妃(唐)